

新型インフルエンザ研究会 第 20 回会議 議事録

1. 会合概要

- (1) 開催日時: 2008 年 9 月 3 日(水) 16:00~18:00
- (2) 場所: インターリスク総研 駿河台ビル 2 階会議室
- (3) 議事進行役: 伊藤(全体会)、太田、伊藤、矢島(分科会)
- (4) 議事録作成者: 深谷(とりまとめ)
- (5) 出席者: 最終ページ参照

2 決定事項・実施事項

2.1 新型インフルエンザ研究会の運営について (全体会)

(1) 運営方針

以下の方針案を説明し合意された。

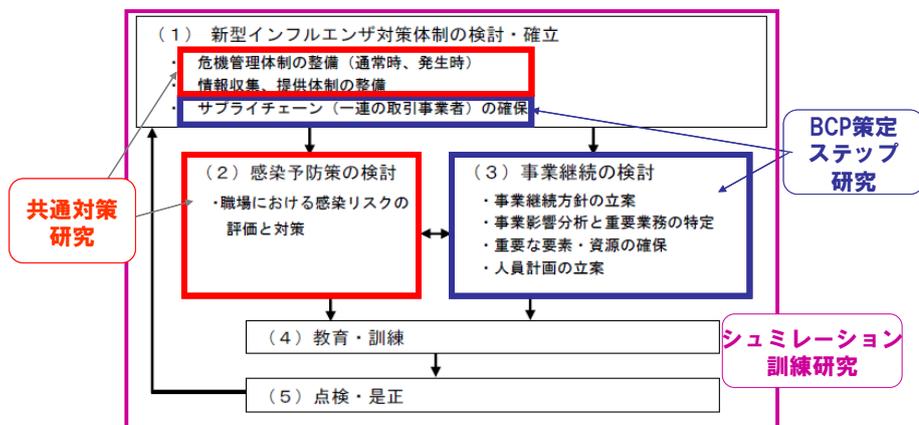
- ・ 新型インフルエンザ BCP 策定を推進する
- ・ 会員間の情報交換の場を提供する
- ・ 当局との連携を図り整合の取れた BCP 策定を目指す
- ・ BCP 作成に必要な情報を広く求め意見交換を行なう
- ・ 特定の商品・書籍等の宣伝や営業活動には関与しない

(2) 活動方針

登録会員数が約 100 名になり、月例会の開催場所確保の問題や各メンバの期待に応えた運営を考え、3つのチームに分割する。

- ・ テーマ別に 3 チームに分割する
- ・ 各チーム個別に活動し、四半期に一度合同開催とする
- ・ 所属するチーム以外のオブザーバ参加は席に余裕があった場合には可能。所属メンバが優先される。
- ・ どのチームにも属さない場合も可とする。
- ・ 研究テーマ (次ページの図参照)
 1. 共通対策の研究
 2. 事業単位の BCP 策定ステップ研究
 3. シミュレーション・訓練に関する研究
- ・ 原則 1 年間はチーム移動はなしとするが、各チームの活動内容が見えてくる 12 月時点で所属チームの変更を検討する。
- ・ 議事録は研究会全体で共有する。
- ・ 活動チーム毎の ML を作成する。

参考：厚生労働省のガイドラインに沿った研究テーマの選定



2.2 共通対策研究チーム分科会

所属メンバ：現在 34 名（うち 23 名が参加）

リーダー：矢島副座長（日本アイビーエム）

研究テーマ案：

1. 危機管理体制の整備
2. 情報収集・提供体制の整備（リスクコミュニケーション）
 - 対当局、対社員、対外的（ステークホルダー）
3. 感染防止策について
 - 薬剤を使用する対策（ワクチン、抗インフル薬）に関する研究
 - 咳エチケット、手洗い、消毒など公衆衛生の観点での研究
 - PPE の備蓄（種類、数量）、配布に関する研究
 - 家庭での対策、食糧備蓄

(1) 研究テーマに関するディスカッション

研究テーマ

- ・他の BCP との違い、共通点をまとめる
- ・パンデミック時の事業所運営の考慮点
- ・危機管理対策の考慮点（契約形態、労災の取り扱い）
- ・従業員のパンデミック時のメンタル対策（労働衛生）
- ・備蓄（目的と種類）の選び方、考え方

※当面は厚生労働省のガイドに沿った活動にする。

オブザーバで招きたい人・企業

- ・保健所の方（千代田区、品川） 消毒方法、接触者のトレース方法、
- ・先進的な取り組み企業の BCP 紹介（会員企業、会員外企業）

・医師(公衆衛生、感染対策)

(2) 活動日

当日は毎月第一水曜に決まりましたが、他チームと調整し毎月第2水曜に変更

次回開催：2008年10月8日(水) 16:00-18:00 日本アイ・ビー・エム 箱崎事業所

2.3 BCP策定ステップ研究チーム分科会

所属メンバ：現在20名(うち15名が参加)

リーダー：太田副座長(ワンビシアーカイブズ)

研究テーマ案：

1. サプライチェーンの確保、
2. 事業継続方針の立案、
3. 事業影響分析と重要業務の特定
4. 重要な要素・資源の確保、
5. 人員計画の立案

(1) 研究テーマに関するディスカッション

- 2009年3月末までの一区切り、3ヶ月ごとの合同ミーティングを踏まえ、6ヶ月でなんらかの成果報告、12月で中間報告と想定している。
- インフルエンザBCPはこれから作成。建設業としての考慮点があると思う。
- 地震のBCPを元にインフルエンザBCPを作成中。JEITAでIT業界の提言をまとめた。基本はひきこもりだが、社会機能維持のために通信・コンピュータは動かす必要があるというのが提言の主旨。これによりIT業界もブレパンデミックワクチンを摂取できることになるが、対象となる人や業務の特定をどうするかは今後の課題。
- 一般のBCPとインフルエンザBCPの違いが知りたい。ガイドラインが欲しい。
- BCPを作るためのパーツや情報が欲しい。そのためなら宿題があってもいいと思う。BCPを作成するためには一歩踏み込んだ情報が必要になるが、テーマの範囲をどこまで広げるのか？
- 地震BCPとの一番大きな違いは、主目的が業務を「継続する」のか「停止する」のかだと思う。また具体的な施策として、在宅勤務や、出社させるにしろ休ませるにしろどちらもリスクがあること、給与をどうするかなどについて検討が必要と思う。
- 両者の違いは、RTOを決められるか(地震)、決められないか(インフルエンザ)だと思う。いつまで業務を止めて耐えられるか、厚労省のガイドラインにはない部分を検討したい。
- メーカーの場合、業務を止めるためのBCPを作って本当に役に立つのか？プラントをどうやって守るのが課題。
- 参加者はオブザーバではなく、多少の作業を共同で進めるという意識と受け止められる。作業内容は、業種ごとの特性を明らかにしながらインフルエンザBCPを作るために必要なことをまとめていくという方針でいいか？
- BCPとして業務縮小のステップを準備する必要があるが、業種ごとに悩みが違う。ガイドラインにはリアリティが足りない。BCPを検討するにはある程度想定が必要なのではないか？
- 日本が発生源となる想定も必要なのでは？

- 日本で新型インフルエンザが発生した場合、初期段階で封じ込める体制を整備しているので、パンデミックの発生源になることは少ないと言われている。
- 明日にも4Aになるかもしれない状況で、これからBCPの考え方をまとめるという方針でいいのか？いつまでに何をするというスピード感が必要なのでは？業務停止の方向に話が進んでいるが、小規模パンデミックが長く続くパターンでは業務停止してられないので継続計画も必要。シンプルに就業率の大中小で分けてそれぞれの施策を作っておくのがいいと思う。
- 厚労省のガイドラインを国の方針と考え、これを元に検討を進めていっていいのか？他の省庁からガイドがでることはないか？
- 現段階では他にはない。厚労省のガイドラインにこだわる必要はないが、ここに既述されているステップを元に考えればよい
- 現在の自社のBCPは不十分だと思っている。しかし、業務を止めるわけにもいかない。どうしたらいいかの指針が欲しい。
- 自社はスタッフ部門の検討は進んでいるが、事業部系の検討はまだこれから。
- 防災面の検討はされているが、BCPという観点ではまだまだ。
- 研究テーマとして上げられたの1～5のステップにはこだわらず、インフルエンザ特有のBCP作成ための考慮点や、他のBCPとの差異をまとめるという方針でよいか？
- 両者(地震と新型インフルエンザ)の違いについてマトリックスを作りたい。方針策定において何が違う？人員計画において何が違う？
- 1～5のステップを検討したくて、このテーマを選んだ人もいるのではないかと？資料に書かれていることをベースにすべきでは？
- ステップごとの検討から始めても、差異のマトリックスから始めても、結局は同じことを検討することになるのでは？
- 言われた通り、遠方の方を含めて「BCP策定ステップの研究」というタイトルでこのグループを希望する方がいることを再認識したい。具体的な活動は議論の中で定まるとして、与えられたテーマ、ステップそのものは遵守する方向で進めたい。

(2) 活動日

- ・毎月 第一木曜 16:00-18:00
- ・議論はメーリングリストを活用して、集合ミーティングに頼らず進めていく
- ・次回開催 2008年10月2日(木) 16:00-18:00

2.4 訓練・シミュレーション研究チーム分科会

所属メンバ： 現在 16 名(うち 12 名が参加)

リーダー： 伊藤座長(野村総研)

研究テーマ案： 1. 教育・訓練、2. 各シナリオの整合性チェック、3. 課題の確認、4. 対策立案の方向性

(1) メンバ自己紹介と抱負について

- BCPの策定を進めており、今後社内で訓練を実施することで、その実効性を検証したいと考えている。

- 新型インフルエンザの訓練をどのように取り扱うか議論の中で方向性をつかみ、今後のコンサル活動に活かしていきたい。意見交換の中でスキルアップを図りたい。
- リスク評価中心のコンサル活動を行ってきたが、今後新たなリスクとしてクローズアップされている新型インフルエンザの取組については是非皆さんと議論する中で、勉強とともに貢献していきたい。
- 会社のBCPの策定を担当しているが、具体的にどのようにその実効性を確保するかが課題となっている。皆さんとの議論の中で何らかの成果を出していきたい。
- ガイドラインを策定する中でも、訓練の充実を図る必要性を感じていた。皆さんとの意見交換の中から何らかの方向性を掴んでいきたい。
- 金融系のBCPを主導している。個別のBCPは徐々に形になっているが、個々の企業だけでなく業界全体、また社会インフラを提供する企業、それを支える周辺企業を含めた新型インフルエンザ対策の実効性について検証する必要性を感じている。この研究会で是非その点について取り組むことを期待している。
- 新型インフルエンザの訓練に関する、海外の動向については是非情報を提供して頂きたい。
- 社内でBCPを策定し、さらに実効性を高めるための取組を行っている。また訓練をどのように取り組むかについて課題となっている。社内だけでなくサプライチェーンのBCPが機能するかの評価の必要性も感じている。この研究会を通じ情報交換をするなかでレベルアップと貢献をしていきたい。

(2) 今後の活動方針に関する意見交換

各参加者の“シミュレーション・訓練”に対する想定またレベル感が異なることから、この研究テーマについて、どのようなことを想定・また期待しているかについて意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- 海外では、3桁の規模の事務局を構成し、ステアリングコミッティ、シナリオ委員会、広報担当、IT担当（アンケートなど収集したデータを分析するためのツールの開発などを担当）といったグループを構成し 訓練を実施している。また、外資金融からも日本における業界横断的な訓練の実施について問い合わせが来ている状況である。各業界を横断する形で自主的にメンバが集まっているBCAOは業界横断的な取組を推進する上で、極めて良いポジションにある。是非業界横断的な訓練を期待する。
- 企業レベルで新型インフルエンザのBCPが出来つつある状況で、業界横断的な訓練まで一気に検討するのは難しい。まずは企業内で、どのようにBCPの実効性を検証するかが最初で、業界横断的な訓練は次のステップと考える。
- コンサル系の会社が多数参加していることから、主だった会社で業界横断的なシナリオを作成するような取組が出来ないか。
- 業界横断的な訓練の実施は、新型インフルエンザ研究会のサブグループとしては重いテーマなので BCAO 理事会に上げて検討してもらおうこととしたい。

(3) 活動日

・毎月 第一水曜 16:00-18:00

・次回開催 2008年10月1日(水) 16:00-18:00 @インターリスク総研 会議室